

京都大学におけるURAシステムの現状 2014

京都大学 学術研究支援室

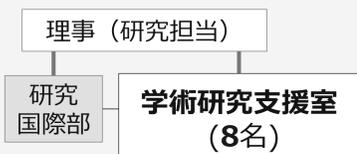
京都大学 学術研究支援室 発足後の変化

【第1フェーズ (H23~H24年度)】

「学術研究支援室」の設置

(文科省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」)

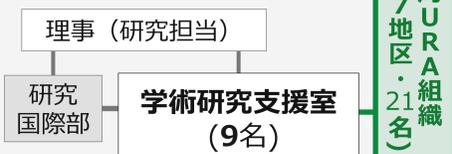
- 学術研究支援室のビジョン・ミッション策定
- 当室業務の学内周知、URAシステムの定着化
- Pre-/Post-Awardに係る研究支援体制の整備



【第2フェーズ (H25年度)】

自主経費による部局URA組織の創設および部局URAの配置

- 学術研究支援室と部局URA組織によるネットワークを構築
- URAシステムの定着化、普及



【第3フェーズ (H26年度~)】

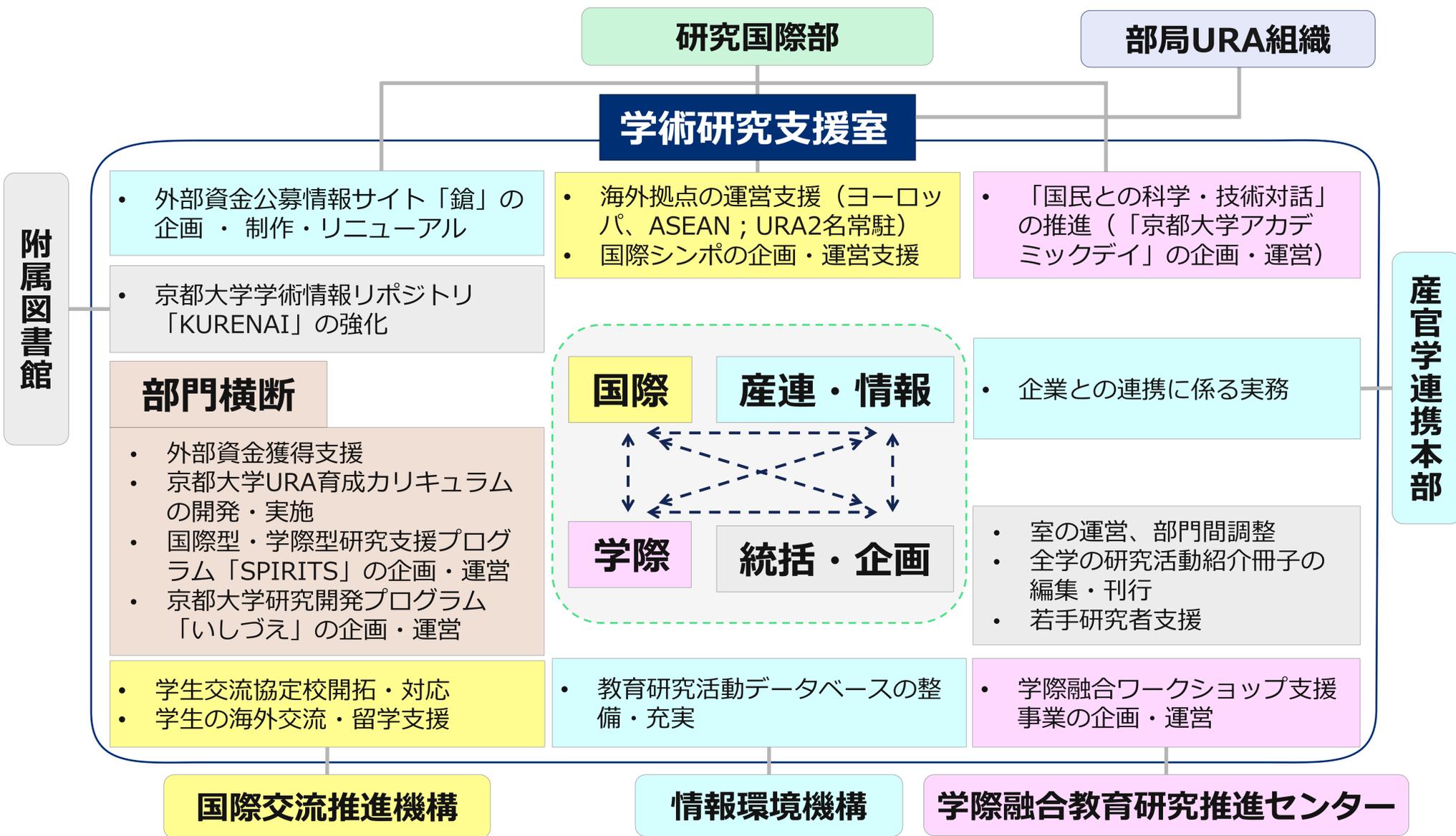
学術研究支援室のURA大幅増員および4部門制の導入 (文科省「研究大学強化促進事業」)

- 学術研究支援室と、学内8地区の部局URA組織・全学研究支援組織によるネットワークの拡大
- 新体制に伴い、ビジョン・ミッションを改訂中



学術研究支援室 新体制

1. 統括・企画部門、2. 産学連携・情報部門、3. 国際戦略部門、4. 学際融合部門



新体制での強化ポイント

1. 未踏領域・学際融合研究の推進
2. 産学連携マッチング機能の強化
3. 国際支援体制の充実
4. 研究情報データベースの基盤構築
5. URA人材育成・制度定着に向けた活動



学術研究支援室は研究者と協働して 知の創造に貢献します！